

令和３年度第１回 徳島県スポーツ推進審議会 議事録

I 日 時

令和３年８月５日（木） 午後３時から午後４時４０分まで

II 場 所

徳島県庁１０階大会議室

III 出席者

【委 員】２０名中１７名出席

分木秀樹会長、佐藤充宏副会長、安藤七海委員、大阪真智子委員、
岡部裕子委員（リモート）、上村昌司委員、幸田貴美子委員、小谷敏弘委員、
高杉繁樹委員、土岡美紀委員、鶴真美委員（リモート）、中田恵莉子委員、
永原レキ委員、西村洋子委員、村上亜弥子委員、山口鉄生委員（リモート）、
米本元子委員

【事務局】未来創生文化部副部長、スポーツ振興課長、スポーツツーリズム推進室長
体育学校安全課長、ダイバーシティ推進課長ほか

IV 内 容

開会

議事

- （１）新型コロナウイルス感染症の本県スポーツへの影響と再開に向けた
取組みについて
- （２）令和３年度スポーツ関連施策について
- （３）徳島県スポーツ推進計画の進捗状況等について
- （４）その他

閉会

《配付資料》

- 新型コロナウイルス感染症の本県スポーツへの影響と取組みについて 資料１
- 令和３年度スポーツ関連施策について 資料２
- 徳島県スポーツ推進計画の進捗状況等について 資料３
- 東京２０２０オリンピック・パラリンピックに向けた徳島県の取組み 資料４
- 「徳島県スポーツコミッション」について 資料５
- 次期「徳島県スポーツ推進計画」の策定に向けて 資料６

V 議事録

開会

☆会長

まず、事務局より、

議事（１）新型コロナウイルス感染症の本県スポーツへの影響と取組みについて

議事（２）令和３年度スポーツ関連施策について

議事（３）徳島県スポーツ推進計画の進捗状況等について

以上、３点につきまして説明をお願いします。

◆事務局

資料１～３に基づき説明

☆会長

続きまして、事務局より報告をお願いします。

◆事務局

東京２０２０オリンピック・パラリンピックに向けた徳島県の取組み 資料４

徳島県スポーツコミッションについて 資料５

東京２０２０パラリンピック聖火フェスティバル開催について

☆会長

ただ今、事務局より説明がありました。

このことにつきまして、御質問、御意見をお受けしたいと思います。この機会ですので、積極的な御発言をお願いします。

○委員

ただいまご説明を聞かせていただいた、徳島県スポーツコミッションについてでございますが、三好の方でもコロナを見据えて、大変な時代ではあるんですが、アフターコロナの戦略として、体験型スポーツ、また自然を生かしてのアウトドアツーリズムの新たな価値を創造して、地域活性を目指したいと考えております。

そこで、令和３年７月２４日、三好では地域再生推進法人に認定していただいた「（一社）地球のテーマパーク」というものが設立されました。「地球」ということで、大変広

い意味があるんですが、ウォータースポーツ、ジオ、観光、地域創生などを全部盛り込んだものでございます。

ご存じのとおり若い方は外へ流出していますし、三好の方は人口がどんどん減っておりますので、イベントをするといっても、事務手続き、申請、すべてのことができる人が減ってきました。そこでこういう一社を立ち上げて、そこで、バラバラに行われていたイベントを全部繋いでいって、みんなでやっていこうという形でございます。なので、ウエイクボードの世界大会をやりました水際公園の運営、また、ラフティングも、マスターズゲームズと一緒にさせていただいているんですけど、そちらの方も人数、スタッフが少なくなっておりますので、一社の方と一緒にやっていくこととなっております。

なかなかイベントの出来ない時代なんですけど、8月の末にはウエイクボードの全日本大会、10月になりましたらラフティングの全日本、もしも出来るのであればウォータースポーツチャレンジ大会、そして10月の最後にワールドマスターズゲームズと大歩危リバーフェスティバルを入れております。そういうことを一生懸命やっていこうと思っておりますので、徳島県スポーツコミッションとは情報交換とか連携を取ってやっていけたらと思います。

◆事務局（スポーツツーリズム推進室長）

ご意見いただいてありがとうございます。ぜひ連携を取るのとともに、委員のところではオープン競技としてもラフティングを開催していただいておりますので、将来的にもずっとそういう大会を広めていくとともに、せっかくですのでワールドマスターズゲームズの期間にも、こちらへ来ていただいた方に西の方の観光、ラフティング体験などをさせていただけたらと、時期を見ながらそういうものをPRしていきたいと考えております。

ちょうど先週、ワールドマスターズゲームズ、次回2025年開催が台湾でありまして、主催の台湾のスポーツ庁とワールドマスターズゲームズ関西組織委員会がオンラインで結んだ会があったんです。そこで日本を紹介するようなところがありましたので、鳥取県と徳島県で15分ほど時間をいただいて、十分西の方もPRして参りましたので。特にかずら橋は非常に反応がよかったと思います。

今後とも機会を取りながら、皆様と連携してPRに努めていきたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願いします。

◆事務局（スポーツ振興課長）

ラフティングについての件ではありますが、実はドイツのハンドボールチームとか、カヌーチームとか、皆さんおっしゃるのは、「ラフティングがやりたい」ということ。これはやはり楽しいという側面と、もう一つ、チームビルドというチームの一体感を構築するためにも必要という考えもあるようです。

本県スポーツコミッションでは、いわゆる合宿誘致というような形のアプローチになるわけですが、その中の一つのキラークンテンツとして、ラフティングというもの、単なる観光だけではなくて、チームビルドが出来るようなコンテンツとして提案できたらと考えておりますので、ご協力をいただけたらと思います。どうぞお願いします。

☆会長

ありがとうございます。他にどなたかおいでますでしょうか。

○委員

私は施策の一つでもあります、「運動好きで健やかな子どもたちが育つ元気なとくしまの推進」というところで、例えば、運動の楽しさであるとか、学校における体育・スポーツ環境の整備であるとか、活気あふれる運動部活動の推進であるとか、ここにも書いてるんですけども、子どもを取り巻くスポーツ環境の見直しということで意見を述べさせていただけたらと思います。

コロナ禍も含めて、子どもが運動できない、行動が制限されて体力の低下が叫ばれています。それと二極化が増しているような気がします。東京オリンピックでは最年少のメダリストが誕生するとか、すごいいい話もあるんですけど、若手のアスリートが活躍しているんですけども、その一方でスポーツ環境の悪化に伴って、自分がやりたいスポーツが出来ない子どもたちも増えているのが現状だと思います。

例えばなんですが、地域の少年団や総合型クラブを通して、バスケットとか、小さい頃からスポーツを行っていた子どもたちが、中学校に入って、そのままバスケやりたいなと思っても、今現状的には、どこの市町村もそうだと思うんですけど、例えばやりたいクラブがなくて、仕方なくバレー部に入らざるを得なかったり、あと両親が共働きなどで、送迎が出来ないために行きたいスポーツ教室に通えなかったりとか、やりたいスポーツをやりたいくても出来ないという子どもたちがたくさんいます。そういった問題を解決するための方法が、なかなか進んでいないような気がします。

現状では市町村の行政が、それを補うために積極的に事業化を進めていくとか、体育とかスポーツ協会、そしてクラブなんかが連携すればいいんでしょうけど、なかなか出来ないのが現状で、その調整役としてですね、行政の方が積極的に出来ているのかなというところ、なかなかそうじゃない現状があると思います。で、文科省の方はですね、学校の部活動の関係を構築するには、総合型クラブとの連携が必要ですよということを進めていて、その多くの地域で、そのためには総合型クラブを育成していく必要もありますよ、というようなことも言ってるんですけども、じゃあ実際徳島県ではどうなんだろうということなんですけども、総合型クラブへの期待というのはどうなのか、もしくは役割というのが今ひとつ明確じゃない感じで、わかりにくいということで、クラブの会議とかでもそう

いった話もよく聞かれるんですね。

で、例えばクラブが担うのであれば、財源的な補償はどうかという話も、実際会議ではあつたりします。これから部活動を担っていくには、まず、仕組みづくりというのが、とても大事なんじゃないかなと思いますので、そのためにももう少し行政の方が、リーディングしていただく必要が望ましくなってくるのではないかと思います。

今後だんだん少子化も深刻になってくると思いますが、子どもたちのスポーツ環境をどのように整備していくかということ、子どもたちに関わる様々な人たちが、子どもたちを主役として話し合っ、作り上げていく必要があるんじゃないかなと思いますので、この機会に述べさせていただきました。

◆事務局（スポーツ振興課長）

総合型クラブの、特に子どもたちのスポーツ環境についてのご提言、ご意見と考えております。

まず、おっしゃるとおり総合型、今それぞれの地域において、地域住民により自主的、主体的に運営されております総合型の方で、様々な取組みがなされていると承知しているところでありますが、その中でやっぱり、十分に子どもたちに向けてスポーツを提供できている地域、クラブと、まだまだこれからだよというクラブがあるという、これは事実だと思います。

競技につきましても、先ほどおっしゃられたように、自分がやりたいスポーツが十分に選択できるような状況に、総合型でもあるかという、すべての競技が選べるというのは、なかなか難しいことなのじゃないかなと思っております。やっぱり、それぞれ地域ごとに総合型クラブが発展といいますか、得意な分野といいますか、競技というのがございます。その中でもやはり、子どもさんに入ってもらえるような競技をされているところ、活発にされているクラブさんもございますので、行政の方でも、情報交換を十分にしながら、他地域のいいところを取り入れていただく、また自分たちのノウハウを出していただいて、それぞれ高みへ積み上げていただく仕組み作りが必要なのかなと考えております。

その中で、行政でありますとか、スポーツ協会でありますとか、そのような形で舵取りをしていく必要があるのかと考えています。

◆事務局（体育学校安全課長）

部活動の地域移行についての、ご意見、ご質問等であつたかと思いますが、現在、中学校、高校で行われております部活動なんですけれども、これにつきましては非常に教育的な効果があると。その中で人間形成であつたり、いろいろな資質を持っている、能力を持っている生徒が活躍できる場を提供できるというような非常に素晴らしい点があるんです

けれども、どうしても先生方の献身的な勤務の元で成り立っておりまして、非常に長時間勤務の要因になっておると。また、競技経験のない先生方におきましては、非常な負担になっておると。そのような形の中から、今後とも持続可能なスポーツの場を提供するということを達成するために、土曜日、日曜日の部活動を、学校から完全に切り離して、地域の方々の力を借りてやっていこうというのが、運動部活動の地域移行の考え方です。

徳島県におきまして、本年度、令和3年度と4年度を試行期間といたしまして、県立中学校3校、それから市町村立では現在小松島中学校に協力していただいて、モデルケースとして試行しておるところです。その中で、今まで運動部活動としてやっていたことを、地域の人材にお願いするということになってくると、非常に問題、それから解決していかねばならないものが出てくることが予想されます。

例えば教師に代わって指導していただく指導人材、地域人材をどうやって確保していくのかと。それから必要とされる競技の指導者を、どこの地域スポーツクラブから派遣していただくのかという、マッチングの問題。また指導していただく人材に対して、どのような研修を行っていくのか。平日は学校の部活動で競技を行っている生徒たちが、土曜日、日曜日に関しては地域で、スポーツクラブで活動を行う、この連携をどうするのか、どういう協力体制をつくっていくのか。今までは学校の教員が無償で、教育活動の一環として教えていた部活動を、土日に移した場合に、費用負担はどうするのか。そのあたりを総合的にマネジメントしていく運営団体をどう確保していくのか。非常にたくさん問題が出てきております。

今年度、来年度の2年間の試行の中で浮き彫りになっていく、それらのことを一つずつ解決、なかなか解決できない部分も出てくるかも知れませんが、令和5年度からは、県立中学校におきましては、できるだけすべての部活動を地域にお願いしたいなというふうなことを考えて、今、試行期間というところで、取り組んでいるという状況でございます。

☆会長

いかがでしょうか。

○委員

よろしくお願いします。

☆会長

スポーツ全般についてご意見がございましたらお願いします。

○委員

2点お尋ねをしたいと思います。

コロナで、思ったよりも第5波がかなりひどいというか、デルタ株で今後もしばらく拡大するだろうという予測になっている中で、やはり運動やスポーツを控えられる方っていうのが、かなりおられます。それを、今来てくださいって言っても、それはなかなか。来る人は来てますので。そこを新たに拡げていくっていうのは、時期としてなかなか厳しい状況というのが現実なところがあります。

それは致し方ないとして、かたやオリンピックで、スポーツってやっぱりいいなって思ってもらっているという、なんともアンバランスな心境というか、という状況が続いていると思います。

ただ、コロナが必ず終わると思いますので、そこで今、多分私もそうですが、旅行に行きたい、こんなことしたい、あんなことしたいっていうのの中に、スポーツを、真っ先にとは言いませんけど上位に、いろいろしたいなっていう欲求が高まっているところにスポーツっていうのを、見る、する、支えるというのでもいいんですけど、そこにもってくるために、施策はすごくわかるんですけど、そこにどういうふうにPRしていくのかということをしておかないと、人の選択肢っていうのは、いろいろある中での1つではあるんですけども、スポーツにきてもらうっていうようなPR、メニューはいっぱいあるような気がするんですけど、PRを県としてどうやってしていくのかっていうのを、また今後、具体的になっていけばいいのかなと、個人的には思っています。

現場の人は、それぞれいろいろがんばっていると思うので、そういう情報とかを、例えば県として進めて、PR係ではないですけど、現場はすごくいろいろなものを持ってがんばっていると思うんですけど、やっぱり資金とか、いろんな広報というのに関しては弱いところも実際あると思うので、そういったところを県から助けていただけたらとか、推していただけたら、スポーツっていうのはもっと拡がるんじゃないかなと、収まったとでありますけれど、というふうに思っているのが1点、今後考えていただけたらありがたいなと思っています。

もう一つはコミッションの方なんですけど、コミッションについては、形になっていけばいいことがいっぱいあるんですけど、出来たばかりで今後のことにはなるんだろうとは思いますが、合宿とか誘致とか、感染症の備品貸し出しとか、そういうこともあるんですけど、やはりオリンピックなど見ると、ボランティアっていうのがすごく必要不可欠なんだろうなと思って。

今SNSやネットでは、オリンピックのボランティアが素晴らしいという発信もよく見受けられますので、大会を開催する、先ほども、人手がいろいろ足りないとか、そういったようなお話もあった中で、直接スポーツをする人ではないんですが、例えば国際

的な、英語がしゃべりたいとか、そういった子どももいますし、大人もいますので、今後、先の話にはなりますけれども、そういったようなものも含んで、このコミッションが進んでいけばなおい形になるんじゃないかと思います。

◆事務局（スポーツ振興課長）

コロナの中、なかなか運動を控えてる方もいらっしゃる中、コロナ後にスポーツを実施していただくための、今のうちからどういうPRをしていくのか、それから今後どのようにやっていくのをご意見賜ったところでございます。

おっしゃるとおり、ただいま、なかなかコロナ禍の中、スポーツをしていくっていう雰囲気にならないというのも、事実だと思います。そういう方がいらっしゃるというのは、事実だと思います。一方でオリンピック、先ほど委員から也得到了ように、オリンピックでやってみたいと思うような、きっかけづくりが出来ているというのも、これまた事実でございまして、我々もこの中で、PRをどのようにしていくかっていうのは、重要な視点だと考えております。

まずはやはり、このあとお話をさせていただくんですが、コミッションでのPRというのも必要だと思います。徳島に來ればこんなことが出来ますよっていうようなPR、それから、徳島にはこんなスポーツ施設があるんだよっていうようなことを、わかりやすく県民の方、県外の方にお伝えするということで、徳島でスポーツをするきっかけ、このような施設がありますというような形で、わかりやすくお知らせする必要があると思っております。

また、コロナ禍の中でも、スポーツの意識を高めていただきたいと思っております、試行ではございますけれども、リモートでのスポーツのコーチング、体操と一緒にリモートでやりましょう、なかなか体育館で集まってみんなでやりましょうということ、感染のことで不安があるという方が、一定数いらっしゃると思います。確かに、開催をする方につきましても、もし自分が主催する会で感染が起こったらどうしよう、という不安もあると思います。

そのような中でICTを活用したような形で、大会であるとか、講習会であるとかそういうものが開けたらということも、今、試行という形で、お願いしているところもございますので、そういうふうなノウハウがたまりましたら、我々といたしましても、県であったり、スポーツコミッションであったり、そのような形でひろめていきたいと思っておりますし、また一方、Love & Fanという、企業さんからLove & Fanとくしまスポーツ活性化計画ということで、スポーツ王国の企業さんからいただいた資金を元に、ホームページやフェイスブックを設立しております。このようなところでの発信もしながら、県民の方にスポーツをしていただく、それから、徳島県でスポーツをしていただくということを、委員がおっしゃられたように今のうちから訴求して、コロナが収まりましたら徳島で、ということ

考えていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

◆事務局（スポーツツーリズム推進室長）

確かに今このような状況で、大会がどんどんなくなっているんですけど、7月18日、タッチラグビーの大会を開いたんですね。やはり感染対策をしながらみんな、日頃あまり練習できていないんだといいながら、足がつりそうになるまでがんばられて、すごく楽しそうにされてました。久々の大会だったんだなと。

しかし、そうするためには、コロナ対策の分の予算が余分にかかって参りまして。一応ワールドマスターズゲームズの、オープン競技というのがありますので、出来る範囲内で、そういう補助等をさせていただきたいと思ひまして、対応していきたいと思ひます。

今後、そういうノウハウとか蓄積していきますので、そういうところで力添えできたらと思ひます。

もう1点、コミッションからの情報発信、ボランティア等の話もございましたので、このあたりの意見も取り入れていながら、どういうふうにしたら徳島に来ていただけるのかというようなことを、今後考えていきたいと思ひます。なおボランティアですが、ワールドマスターズゲームズが来年の5月、すでに申し込みをしていただいている方が155名、この方が今もキャンセルをせずに、今のところ申し込んでいただいております。このコロナ禍でありながら、参加したいという方は非常に多くいらっしゃいまして、その中で、英語がしゃべれる方、片言でもしゃべれる方もいらっしゃいまして、とても外国人の方とコミュニケーションを取りたい、まさしく委員がおっしゃっていたようか方もいらっしゃいますので、是非そういう方に、研修も含めまして存分に力を発揮していただいて、交流に努めていきたいと思っております。

○委員

先ほどの、コロナが終わったあとのもっとスポーツを楽しみましょうっていう切り口のご意見、大変興味深く聞かせていただきました。また、総合型クラブの役割というものを、もう少し、もっともっと着目をして、活躍できる環境整備をという意見もあったかと思ひます。

参考になるかなと思ひましたが、私どもが障害者スポーツを進めていく観点で、県の方からも事業をいただいて、指導者のための人材バンク、といったものを、障害者スポーツ協会の方で運営をしているところでございます。県、教員のOBの方とか、あるいは特定の障害者スポーツのボッチャとか、特定の競技スポーツの専門の方、もちろんトレーナーの方もいらっしゃいますけども、そういった方を学校とか、単発的なところではあるんですが、こういった機会に派遣をしてほしい、といった時に派遣をしていく

といったコーディネート、マッチング作業のようなことをやっております。

先ほどのお話を聞いておりました時に、私ども障害者の協会ですらやっておることですが、もう少しこうしたスポーツをしたい人、あるいはスポーツの指導者がほしい人といったより広範囲のところで、関係する総合型スポーツクラブも含めて、もっともっと協力が出来れば、いろんな部分のハンディとか、制約のある条件を少しでも取り除いていく、きっかけになりはしないかなということを思ったので、発言をさせていただきました。

実際私どものほうが障害者の方に向けて、利用者というのは施設に入所されている方というんですが、なかなかやはりいざ感染したらどうかとか、帰ったあとで、スポーツイベントの後のクラスターになりはしないかなという、支援員も施設側も、まだまだ神経質になっている状態ですので、そういった中で、どうやって次に向けてスポーツをするマインドをつくっていくかということを、今から、科学的な感染対策も知識も含めて着実に進んでいくようなプログラムを用意して、みんなが協力しながら共通理解の元で進めていくことが大事ではないかなという気がします。

県の方では、ですから、モデルとなるような、こういう形をしながらうまくやり始めてますよといった、うまくいった成功事例を紹介していただくとか、あるいは県全体で取り組むキャンペーンというような形、スポーツをしようとか、レッツスポーツとか、スペイン語で言うとバムススポーツとか、そのような言葉の元に、こういったことが出来ますねとか、やっていきましょうというところで、総合的な情報発信をしていただいて、かつ、それが徳島県外に行くのであれば、スポーツコミッションとかいった形で、それぞれがバラバラに進むのではなくて、この厳しい時代を乗り越えた、特に今、オリンピックとかスポーツ選手ががんばっている様子が、感動を得ておりますので、そういったところを、身近なところで感じられる状況を、前向きに捉えてやっていくところを今からみんなで知恵を出して、やっていく時期がきているのではないかなという気がして発言をさせていただきました。

◆事務局（スポーツ振興課長）

成功事例の共有と、それから総合的な情報発信、バラバラではなくということで、それを強くキャンペーン化して、次の時代のスポーツマインドを蓄積していくっていうようなことでお話をいただいたことでございます。

おっしゃるとおり、やはり情報共有とそれから情報発信ということが、それぞれキーになることではないかと考えております。

先ほどお話をいただいたような、障害者スポーツの人材バンクというのも同様ですけれども、我々どのような形で共通した情報を、大きく県民の皆さんに発信できるか検討し

て参りまして、今後につなげていきたいと考えております。ありがとうございます。どうぞよろしくお願いします。

○委員

先ほどおっしゃられた意見に付け加える形にはなるんですけど、現在、子どもの運動の実施時間の二極化というのも問題になっていると思います。

また、高齢化も進む中で、日常的にスポーツを選ばない人々へのアプローチであったり、県としてのPRというのは、具体的にどういうものを行うことを考えているのか、できる限りで教えていただければ幸いです。お願いします。

◆事務局（スポーツ振興課長）

子どもの運動、高齢者、日常的に運動をされない方へのアプローチ、なかなか正直申し上げて難しい問題だと思います。

先ほども、二極化が増しているというご意見もあったところでございまして、届く人にはどんどん届くんですけど、なかなか届かない人には響かないというのが現実ではなかろうかと思います。

そんな中でもやっぱりオリパラ、これは一定の力強さを、情報の力強さを持っているものだと思います。聖火リレーが我が町に来たということで、皆さん笑顔で迎えていただいたことがあります。それから事前キャンプで、アスリートが、メダリストが我が町に来たということで、皆さん町を挙げて応援にきていただく、まずはこういうふうなところも、運動に興味を持っていただく一歩なのかなと考えております。

そしてその後、ワールドマスタースゲームズのように、今度は身近な人がスポーツに取り組む姿っていうのも、まずはやってみる、そこに出場していただくっていうのが目標でございまして、その次にワールドマスタースゲームズを見ていただく、あ、僕も出来るなっていうような、私も出来るなっていうような形を考えていただくのも、一つのアプローチじゃないかなと思っております。

そのような中で子どもさんも、コロナが許せばという条件が入るのが、非常に残念なところではありますが、ワールドマスタースゲームズをご覧いただいて、一緒に競技を応援していただく、それが徳島の舞台で出来ますということで、積極的に住民の皆様、子どもたちに見ていただくきっかけになればと思いますし、我々も来ていただけるようにPRし努力していきたいと思っております。

○委員

コロナの現状において、スポーツの活動がどんどん自粛して減っているいう中ではあ

るんですけど、資料2にありました「豊かなとくしまの推進」の施策目標に「スポーツに関心のない方0%」というのがあるんですけど、昨年はACPを活用した運動の大会であったり教室を開いた折に、今まで、コロナになる前までは、家に引きこもってゲーム等をしてあまり外に出たくないというお子さんたちが、コロナで自粛、学校が休みになって外に出られないという状況になったことによって、むしろ運動がしたいと、自発的にお母さんとかに申し出て、活動に参加される方というのが結構増えてきたように思います。

そういったところで、もちろんスポーツに興味関心があって活動されるお子さんたちは、どんどん活動してもらえるように情報発信していけばいいと思うんですけど、せっかく今まで興味関心が全くなかったお子さんたちが、ちょっと自分で体を動かしたいなと興味が出てきた、せっかく芽生えてきた気持ちなので、こういったところを枯らすことなく育てれるような、役に立つ、参加したくなる情報を発信していくことを、今後お願いできたらなと思います。

それに合わせてPRになるんですけど、当協会では2023年に徳島県でレクリエーションの全国大会を開く予定となっております。全国から約数千名の協議関係者が徳島県へ来県して、レクリエーションの祭典を行うと。徳島県ではそれを行う際に、やはり県民の方々を巻き込んでいって、そこでスポーツに興味関心を持ってもらえたらなと考えております。

レクリエーション自体が、ラグビーだったりとか、スポーツスポーツしいスポーツではなくて、遊びの中、ゲームの中で楽しんでいる、気がつくと同量量の運動をしているという、結果的にスポーツをしているというふうな方向性のものですので、そこにお子さんであったり、高齢者であったり、障害のあるなしにかかわらずいろんな方に参加していただいて、徳島県の運動、体力向上等に協力できたらなと思っておりますので、ここに参加されてる皆様にも、スポーツ関係ということで、今後ご協力いただけたらなと思います。

◆事務局（スポーツ振興課長）

ありがとうございます。レクリエーションの全国大会でも、積極的に子どもさんに参加していただいて、スポーツの入り口になるようにということと、繰り返していただいて我々もこれが重要だということ身にしみたのはやはり情報発信、ここにつきるかと思えます。

一人でも多くの子どもさん、それから県民の皆さんがスポーツの扉を開けていただけるような情報発信を検討して参りたいと思います。ありがとうございます。

○会長

事務局からは何かありますか。

◆事務局

次期「徳島県スポーツ推進計画」についてスケジュール等
次回の審議会の開催を２月頃に予定していることを説明

資料 6

閉会